蒼井村正
表紙イラスト：トイト
Lover'S Brother
ラバーズ・ブラザー
試し読み版
二次元ぷち文庫

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『Lover'S Brother』
に基づいて作成しております。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

Lover's Brother
ラバーズ・ブラザー
蒼井村正
表紙／トイト
二次元ぷち文庫

登場人物紹介

Characters

美希（みき）

恋人の章悟にゾッコン状態のツンデレ系美少女。学園では姉御肌の風紀委員長兼、合気道部の部長として、生徒達の人気を集めている。

章悟（しょうご）

美希の恋人。美形で、精力絶倫なセックステクニシャン。ちょっと悪魔系な所のある不思議少年。

隆（たかし）

章悟の弟。兄の恋人である美希を相手に、セックス初体験をすることになる。兄に似て可愛い系の美形で、しかも絶倫！

「ンッ……んふぅ……ん……クチュッ」

柑橘系の芳香剤がほのかに香る個室の中に、鼻にかかった少女の呻き声が響く。

躍動感に溢れる、スリムに引き締まった肢体を持った、キリリと凛々しく整った顔立ちの少女であった。黒く艶やかな髪を、赤い組紐でポニーテールにまとめている。

彼女の名は美希（みき）。通っている学園では、合気道部の部長を務める武道少女だ。

凛々しい美貌と、陽気でボーイッシュな性格が、男子生徒のみならず、女子生徒にも絶大な人気を誇っている。

そんな彼女が、ほぼ全裸の身体に前をはだけられた制服のシャツだけをまとい、温水洗浄機付きの便座に腰を下ろして切なげに身じろぎしているのだ。

軽く汗ばんだ半裸身は、筋肉質に引き締まってはいるが、バストからヒップにかけては女性的なボリュームを誇示している。

剥き出しになったスリムな下半身から、スラリと伸びた生足の爪先が、切なげに床を掻いていた。右の足首には、小さく丸まった白いショーツが引っかかっている。

そんな扇情的な姿をした少女の身体を正面から抱き締め、Tシャツとジーンズ姿の少年が濃厚なキスをしかけていた。美希の恋人であるクラスメイト、章悟（しょうご）だ。

切れ長の目が涼しげな印象を与える色白な美少年で、背は百七十センチ台後半。少し痩せ形の体格だが、Tシャツから覗く腕はそれなりにたくましい。

（試読部分）
ここからスタート！

ここは章悟の家。狭いトイレの個室内で、二人はディープキスに興じているのである。
少年の力強い舌が口腔内を掻き回すたびに、ポニーテールにまとめた美希の黒髪が、喜悦にわななく身体に連動して揺れる。込み上げてくる欲求に汗ばんだ身体から、コロンの香りに混じった甘酸っぱい少女の匂いがフワリと香り立つ。
「んっ……んふぅ……ちゅっ……チュクッ……」
口の中に滑り込んできた恋人の舌を吸い上げ、震える舌を絡めて、美希は濃厚なキスに没頭してゆく。少年の舌も巧みに蠢き、力強くくねって味覚器官同士を擦りあい、口腔内を隅々まで舐めなぞる。ざらついた味蕾同士が互いを削り落としてしまいそうなほどに摩擦し、舌の付け根や上顎の裏側、唇裏の粘膜組織を休みなく這い回った。
「くふぅぅ……ンッ……んっ、チュプッ、クチュッ……はむぅぅぅ」
紅潮した顔を快感で蕩けさせながら、美希は夢中になって恋人の舌を吸い上げ、注ぎ込まれる唾液をコクコクと喉を鳴らして飲み干した。
チュプッ……。きらめく唾液の糸を引きながら、二人の唇が離れる。
「う……んんっ……も、もうダメぇ……出ちゃ……うっ」
羞恥に頬を染め、涙目になって訴える少女、美希。
「耐えてるその顔も可愛いぜ。ほら、我慢せずに出しちまえよ」
紅潮し、汗ばんだ美希の頬を手の平で包み込んで顔を上向かせ、彼女の恋人である少年、

章悟は切なげに喘ぐ恋人の唇を親指の腹でなぞって愛撫しながら排泄を促す。
トイレに入る前、美希は浣腸液をたっぷりと直腸内に注入されていた。それが効果を発揮し、少女の下腹はキリキリと張り詰めるような排泄欲求に責め立てられている。
白い陶製の便座に腰掛けた武道家少女は、引き締まったボディを汗で濡れ光らせて、決壊寸前の排泄欲求に抗っていた。
「やぁ……ダメ……恥ずかしいよぉ。章悟に見られながらなんて、出せない……ッ」
普段の凛々しく勝ち気な彼女を知る者が聞いたら、腰を抜かしてしまいそうな媚を含んだ声を上げ、抱き締められた肢体を震わせる美希。
グキュルルル……スリムな下腹が、恥ずかしい音を立てて鳴った。たっぷりと注入された浣腸液が、少女の腸に排泄蠕動を強要しているのである。
「あはぁぁうっ！」
切羽詰まった声を上げた少女は、目の前に立った恋人の身体にキュッ、とすがりつく。
「そんなに我慢しなくていいよ。つらいんだろ？　出せよ……」
紅潮して震える耳元で優しくささやかれ、きつく抱き締められた。
「んはぁぁ！　そんなにきつくしたら……ダメぇ！」
背筋をゾクゾクするような快感が走り抜け、すでに限界だったアヌスの蕾が制御不能の痙攣を起こす。

「あっ！　出ちゃうっ……んくうぅぅぅ〜ッ！」
贅肉の欠片もなく引き締まった下腹の筋肉が、キュウッ、と引き絞られ、狂おしいほどに強まっていた排泄欲求を解放した。
恋人にガッチリと抱き締められながら、最も恥ずかしい瞬間を迎えた少女の身体が、ブルッ、ブルブルッ、と震える。便座の水が勢いよく流れる音が、恥ずかしい噴出音を掻き消してくれた。
「可愛いぜ、美希」
ささやくような口調で言った章悟の指が、喘ぐ口の中に突き込まれ、羞恥と排泄快感の板挟みに震える少女の舌を摘んで弄り回す。
「んぅ……んふぅ……はぷっ」
ピチャピチャと音を立てて舌を絡ませ、口腔を侵す指を吸いしゃぶる美希。
「勝ち気で男勝りなおまえが、こんなにしおらしくて可愛いなんて知ったら、学校の連中はなんて思うかな？」
「やぁぁ……」
羞恥心を煽り立てられた少女は、口に含んでいた指を吐き出し、恥ずかしげに顔を俯かせてしまう。学校では合気道部の部長も務め、女子生徒にも絶大な人気を誇る凛々しく強い武道少女は、恋人の章悟にだけはデレデレなのだ。

彼と付きあいだしてからもう半年ほどになるだろうか。それまで、男子と付きあったことのなかった美希にとって、章悟は新鮮な存在であった。クラスの他の男子と比べるとはるかに大人びており、超然としているようでいながら、どことなく寂しげな雰囲気を漂わせる少年と何となく交際し始めて数ヶ月。今では、身も心も彼に支配されてしまっている。

「やっぱりおまえしかいないよ。弟の……隆（たかし）の筆下ろしの相手は」

腸内のものをすっかり出しきってすすり泣いている美希の髪を優しく撫でながら、少年は悪魔的な魅力を秘めた微笑を浮かべてささやきかけてくる。

「うぅ……」

あらためて恥ずかしさが込み上げてきて、複雑な困り顔を浮かべる美希。彼女は、恋人である章悟の弟、隆に筆下ろし体験をさせるために、身体の隅々まで清めている最中なのだ。

浣腸液を注入される前にも、少年離れした章悟のテクニックで理性が吹き飛ぶ寸前まで焦らし抜かれ、そんな状態で筆下ろしの一件を切り出されては、断りきれるわけがない。

（わたしが……タカシ君の筆下ろし……初めての人になる……）

罪悪感や背徳感と同時に、ゾクゾクするような妖しい昂りが込み上げてくる。

隆と美希は知らぬ仲ではない。この家に遊びに来たときには、一緒にゲームをしたり、食事をしたりしたこともある少年なのだ。兄である章悟に似て、なかなか整った顔立ちをしているが、表情や雰囲気は、まだ幼さを感じさせる。何よりも、章悟のような悪魔的な

少年と少女の喉奥から、同時に声が漏れる。互いの性器が熱と湿り気を伝えあい、美希の指に絡まれたペニスが、挿入への期待感でピクピクピクッ、と可愛らしく震えた。

「さあ、入っていくよ……ん……んふぅ……」

プックリと張り詰めた亀頭の丸みが、膣口にめり込んでくる感触。くぷっ……ぬぷっ……柔軟に広がった入り口が、小振りな亀頭をパックリと咥え込んだ。

「あ……はぁぁ……」

紅潮した目元を細め、熱く切なげな吐息を漏らす武道少女。

見ているときには可愛らしいとさえ思えた勃起であったが、膣口をこじ開けて入り込んだ亀頭は、意外なほどの存在感を伝えてくる。

（章悟より小さいのに……熱くって……固いわ）

少年の兄である恋人のペニスを思い出しつつ、大きく息を吐きながらヒップを深く沈み込ませ、根本までペニスを呑み込んだ。

章悟以外の男性器を膣内に迎え入れるのは、これが初めてであった。

「どう？　きもちいいでしょ？　これが女の子の中だよ」

膣壁を甘く蕩けさせるペニスの存在感に目を細めながら、美希は初挿入の快感に震える少年に声をかける。

「凄い、熱くって、トロトロで、きもちいいよぉ、お姉ちゃぁんッ！」

えっちシーン試し読み
ここからスタート！

ペニスを蕩けさせてしまいそうなヴァギナの心地良さに、少年は細く華奢な裸身をギクギクッ、と強張らせながら、可愛らしく蕩けた声を上げる。

（タカシ君、可愛い……）

言いようのない興奮に、胸を高鳴らせる美希。体温がさらに上昇し、ペニスを咥え込んだ膣壁が、ヌルヌルと妖しく蠢いた。

「もっともっと気持ち良くなるよ」

快感に歪む年下少年の顔を愛おしげに眺めつつ、美希は密着した尻を緩やかにくねらせてペニスを締めつけ、しっとりと汗ばんだ薄い胸板を指先でなぞる。ピンッ、と勃起した小さな肉粒のような乳首を、指の腹でクルクルと撫で回して快感を送り込んだ。

「あっ！　美希姉ちゃん……そこぉ」

予想外の快感に乳先を貫かれた少年は、困惑したような表情を浮かべ、切なげな視線を兄の恋人に投げかけてくる。

「男の子でも、ここは気持ちいいんだよ。ほら、こうするともっと気持ち良くなるよ」

甘く優しい声をかけた美希は、固く尖った乳首を指先でキュッ、キュッ、と摘み上げて、より強く深い快感をプレゼントしてやる。

「アッ！　あぁぁっ、それ、気持ち……いいッ！」

初めて体験する乳首責めの快感に、まだ幼さの残る少年の顔が歪む。快感に連動した勃

起が、膣内でビクンッ、ビクビクッ、としゃくり上げた。
「あんっ！　タカシ君のが、わたしの中で動いてるよ」
筋肉質に引き締まった裸身を、ビクンッ！　と震わせるポニーテール少女。小振りなペニスが抜け落ちぬように注意しつつ、美希は小刻みに腰を揺すって膣壁でペニスをしごいてやる。引き締まったヒップが跳ねるたびにベッドが小さく揺れ軋み、たっぷりと溢れ出た蜜液が結合部でこね回されて、ピチャピチャ、チャプッ、チャプッと淫らな音を立てた。
「ふぁ……うっ、く……んんん……っ」
強烈な快感にペニスを貫かれた少年は、ベッドのシーツをギュッ、ときつく握り締めて、込み上げてくる射精欲求に耐えている。
（なんだか、子供の頃の章悟を可愛がってあげてるみたい……）
時を遡って、数年前の章悟を愛撫しているかのような、倒錯的な悦びを感じつつ、美希は緩やかなグラインドに、膣壁の締めつけも交えて、年少者のペニスに快感を送り込んだ。
括約筋を、キュッ、キュッ、と収縮させると、若い血潮でコチコチに滾った海綿体の感触が膣壁にも伝わってくる。
「んはぁぁ……タカシ君のオチンチン、コチコチで、ビクビクッてしてるよ」
艶めかしいため息混じりの声を上げつつ腰をくねらせると、背筋をゾクゾクと疼かせて、悦波が駆けのぼった。

ポニーテールの黒髪を揺らし、スリムに引き締まった裸身を甘い汗に濡れ光らせて、少女は年下少年のペニスを膣内でしごき上げる。細やかな肉襞を連ねた粘膜のトンネルが、ビキビキと軋みを上げそうなほど充血した小振りなペニスを締めつけ、包み込んで、ズルウゥゥッ、ヌチュウウゥゥッ、とストロークする。

「お、お姉ちゃん……も、もう……」

ベッドのシーツを握り締め、汗ばんだ裸身を強張らせたまま、少年は限界を告げる声を上げた。

「いいよ、中で出して、いっぱい出していいよぉ！」

蕩けた声を上げた美希は、引き締まった腹部に腹筋の凹凸をキュッ、キュンッ、と浮かび上がらせて、ペニスを締め上げ射精を促す。

刺激慣れしていない未熟な牡器官は、あっさりと快感に屈していた。

「あぁぁぁっ！　でっ、出る……んんんんくうぅぅッ!!」

鳴くような声を上げた少年の身体が弓なりにのけ反り、膣壁に包まれた肉柱がひときわ固く張り詰めた。

「あぁ、来るッ！　タカシ君のが……射精するのね！」

歓喜に身を震わせながら、美希は声を上げ身をのけ反らせる。膣壁がさらに収縮し、チュウッ！　と音がしそうなほど強烈にペニスを吸い上げた。

「くうぅぅ〜ンッ!!」
鳴くような声を上げ、少年は生まれて初めての膣内射精に突入してゆく。
ビクンッ！　ビクビクビクビクンッ！　生まれて初めての膣内絶頂を迎えた牡器官が、激しく力強い痙攣を起こす。
ドクッ、ドクンッ！　ドピュルッ、ビュルッ、ビュルッ、ビュルッ、ビュルルルッ!!
ふんわりと濡れ蕩けた膣壁に揉み搾られながら、思春期まっただ中のペニスは灼熱のスペルマを兄の恋人である少女の中に解き放った。
「あ……あぁ……熱いのが……でて……る」
夢見るような声を上げ、膣内にピュルッ、ビュクビュクッ、と放たれるスペルマの熱に酔いしれる。射精筋が甘美な収縮を起こすたびに、少年はベッドに後頭部がめり込みそうなほどに首をのけ反らせ、切れ切れの鼻息を漏らして放出快感に翻弄されている。
脈動が完全におさまるまで待ち、美希は胎内のペニスをゆっくりと引き抜いた。
ヌチュ……チュクルッ……。
愛液が混じったスペルマの糸を引きながら、膣内で茹で上げられたかのように紅潮した肉柱が抜け落ちる。若い血潮に海綿体を張り詰めさせた牡器官は、二度目の射精を終えてもなお、下腹にめり込まんばかりの勃起を維持していた。
「いっぱい出たね……きれいにしてあげる」

湯気が立ちそうに火照ったペニスに顔を寄せたポニーテール少女は、章悟に教えられた「お掃除フェラ」の技巧を駆使して、射精直後の敏感なペニスを舐め清めてゆく。

とろみに濡れた肉茎にゆっくりと舐め上げ、童貞を卒業して、一回りたくましさを増したようにも見える亀頭のくびれを舌先でこそげるようにして、スペルマと愛液の残滓を残らず拭い去ってゆく。最後に亀頭を口に含み、柔らかく吸い上げると、尿道内に残っていたスペルマの残滓が、チュルッ、と舌の上に搾り出されてきた。

「くふうぅぅ……ンッ」

射精直後の敏感な亀頭を吸われて、少年は鼻にかかった呻きを漏らす。

無意識のうちにお尻をくねらせつつ、無心になって亀頭をしゃぶり回していた少女の乳房が、背後からムニュッ、と鷲掴みにされる。

「ふぁ！　え、しょ、章悟？」

亀頭を吐き出して振り向いた美希は、いつの間にか背後に回っていた恋人の顔を間近に見て困惑の表情を浮かべてしまう。

年下少年の童貞を奪う一部始終を見られていたというのに、至近距離で見つめられると、恥ずかしさと罪悪感があらためて込み上げてくる。

「オレも混ぜてもらうぜ。いいだろ？」

背後からやわやわとバストを揉みこねながら、章悟が耳元でささやきかけてくる。いつ

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/